

令和3年度 第40回全国高校生建築製図コンクール結果報告

製図コンクール運営委員会

第40回全国高校生建築製図コンクールには、東日本建築教育研究会の加盟校および加盟校以外の先生方から、校務ご多忙にもかかわらず絶大なるご協力を頂きました事を厚くお礼申し上げます。

1. 応募校数

応募校数		全日制		定時制		加盟校				加盟校以外			
2021	2020	2021	2020	2021	2020	全日制		定時制		全日制		定時制	
2021	2020	2021	2020	2021	2020	2021	2020	2021	2020	2021	2020	2021	2020
40校	44校	36校	40校	4校	4校	34校	35校	4校	4校	2校	5校	0校	0校

2. 応募作品数

課題名	加盟校別	回数	学校数・作品数		全日制・作品数		定時制・作品数	
課題1	加盟校	2021	29校	72点	26校	68点	3校	4点
		2020	32校	83点	29校	76点	3校	7点
	加盟校以外	2021	2校	6点	2校	6点	0校	0点
		2020	5校	13点	5校	13点	0校	0点
課題2	加盟校	2021	8校	21点	7校	20点	1校	1点
		2020	14校	34点	12校	31点	2校	3点
	加盟校以外	2021	1校	1点	1校	1点	0校	0点
		2020	1校	3点	1校	3点	0校	0点
課題3	加盟校	2021	17校	38点	17校	38点	0校	0点
		2020	19校	45点	18校	43点	1校	2点
	加盟校以外	2021	1校	3点	1校	3点	0校	0点
		2020	1校	2点	1校	2点	0校	0点
課題4	加盟校	2021	7校	12点	7校	12点	0校	0点
		2020	5校	13点	5校	13点	0校	0点
	加盟校以外	2021	1校	3点	1校	3点	0校	0点
		2020	1校	3点	1校	3点	0校	0点
課題5	加盟校	2021	6校	13点	6校	13点	0校	0点
		2020	8校	19点	8校	19点	0校	0点
	加盟校以外	2021	1校	3点	1校	3点	0校	0点
		2020	1校	2点	1校	2点	0校	0点
応募校計		2021	172点		(加盟校：156点・加盟校以外16点)			
		2020	217点		(加盟校：194点・加盟校以外23点)			

3. 校内作品審査数の総計

加盟校別	回数	課題1	課題2	課題3	課題4	課題5
加盟校	2021	876点	283点	381点	34点	24点
	2020	1,031点	394点	421点	27点	55点
加盟校以外	2021	10点	4点	5点	5点	3点
	2020	136点	4点	2点	5点	2点
審査数計	2021	886点	287点	386点	39点	27点
	2020	1,167点	398点	423点	32点	57点

4. 審査について

(1) 実施要項の補足について

「第40回全国高校生建築製図コンクール」作品募集において、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点を考慮し、以下のとおり実施についての補足をホームページにて周知した。

- ①作品募集は、実施要項に沿って予定通り実施します。
- ②本年度は、例年の審査方法に以下の改善点を加えて審査を行います。

<改善点>

- ・作品審査(課題1～3)は、全ての段階の審査(1次・2次・最終)でコピーの複写図による審査とします。
- ・コピーの濃淡による複写図の善し悪しがなく、濃淡は自動に設定して複写をします。
(コピー複写は業者に委託します)
- ・コロナ禍、授業等の教育活動が計画通り行かないことも考慮し、期限が過ぎた場合(11月30日消印有効までの受付分)でも奨励賞は授与します。(教育的配慮とします。)その場合でも、作品送り状への入力・作品送付などは実施要項の通りとします。
- ③建築教育ニュースへ掲載している「課題別審査の観点」を参考資料として別紙にて公開します。各校での指導にお役立てください。

(2) 賞の選出

- ①各課題最高作品を金賞とし、順次銀賞銅賞入賞とする。
- ②各課題定時制課程参加作品から入賞以上を選出する。

(3) 審査方法

①1・2次審査

- ア. 各委員が課題毎に4人1チームを編成し、「リレー方式」の審査を行う。(原図の複写図を委員の所属校に送付し、審査を行う。終了後、次の委員の所属校へ送付し順次、審査を行う)
- イ. 複写図を使用し、表題欄はカットする。
- ウ. チェックを書き込む。(委員毎にペン色を変えて書き込む)
- エ. 各課題参加数の1/5程度(最大20点程度)を目安に絞り、入賞作品の対象とする。
- オ. 審査は、「課題別審査の観点」に沿って行う。
- カ. 作品を相対的に比較する。

②最終審査

- ア. 審査は、集合方式の審査を行う。
- イ. 図面は、1・2次審査で使用した複写図面を使用する。
- ウ. チェックを書き込む(赤ペンで書き込む)
- エ. 入賞作品以外の作品で再度入賞以上に該当するものがないか確認する。
- オ. 最終決定を投票で行う。
- カ. 原図の確認を行う。

(4) 課題別審査の観点(参考)

①課題1「軒先マワリ詳細図」

- ア. 図が正確に描かれているか。(部材の大きさや厚み・金物

等の形状・部材相互の距離等)

- イ. 明瞭な図であるか。(線の使い分け・線の始端から終端まで均一な太さ、濃さであるか)
- ウ. 文字や数字は明瞭で正確であるか。(抜けている、大きすぎる、小さすぎる、形状がバラバラ等)

エ. その他

松丸太に関して

- ・太鼓落しを表現する曲線はフリーハンドより定規使用の方が良い。

※ただし曲線がフリーハンドで描かれていても失格ではない。

野縁に関して

- ・位置は軒桁中心から測られているか。

天井に関して

- ・位置が製図例2-6に基づいているか。

線の使い方に関して

- ・下書き線が濃すぎないか。
- ・仕上げ線(断面線)が極端に太すぎないか。

②課題2「木造平家建専用住宅」

- ア. 平面図・立面図・断面図が正確に描かれているか。(教科書3章に準じているか)
- イ. 外構計画に工夫があるか。
- ウ. 文字や数字は明瞭で正確であるか。(抜けている、大きすぎる、小さすぎる、形状がバラバラ等)
- エ. 図面相互にくい違いがないか。
- オ. 明瞭な図であるか。(線の使い分けが正しいか)
- カ. 製図規約を重視しているか。
- キ. その他

配置図兼平面図に関して

- ・道路境界線、隣地境界線と建物の距離が抜けていないか。
- ・隣地境界線を実線で描く等、線の使い方を間違えていないか。
- ・床の仕上げを表現していないか。

立面図に関して

- ・全体的なバランスが良いか。

断面図に関して

- ・平面図に記された切断線の位置とのくい違いがないか。

③課題3「木造2階建専用住宅」

- ア. 計画性を重視する。
- イ. 配置・平面・立面・断面・外構の計画に工夫があり機能的であるか。
- ウ. 構造的に無理がないか。
- エ. 製図規約に配慮しているか。
- オ. その他

設計主旨に関して

- ・主旨と計画にくい違いがないか。

配置図兼平面図に関して

- ・道路境界線、隣地境界線と建物の距離が抜けていないか。
- ・家族構成に対して、所要室や各室の面積に配慮しているか。

- ・将来的に高齢者に配慮した計画であるか。
- ・外構計画において高低差に配慮しているか。
- ・車と駐車スペースの大きさや表記方法に間違いがないか。
- ・平面図に家具が記入されているか。
- ・平面図に柱や通し柱が抜けていないか。
- ・平面図に記された階段の段数は正確か。
- ・平面図に記された階段には、手すりを設けているか。

立面図に関して

- ・平面図とのくい違いがないか。
- ・全体的なバランスが良いか。

断面図に関して

- ・切断位置が開口部を含む位置であるか。
- ・形状が不適切でないか。(異常に高すぎる, 低すぎる)
- ・高さに関する寸法の記入があるか。

④課題4「木造平家建専用住宅」(CAD製図)

注意：2枚提出されているか。(1枚しか提出されていない場合は失格とする)

- ア. 敷地の形状や配置・外構計画に工夫があるか。
- イ. 平面図は正確に描かれているか。(教科書第3章に準じているか)
- ウ. 立面図に工夫があるか。(窓の形状や種類, 位置等が平面図と異なっていないか)
- エ. 断面図に工夫があるか。(屋根形状を生かした内部空間であるか)
- オ. 屋根の形状に工夫があるか。(機能を充たす屋根の形状であるか)
- カ. 図面相互にくい違いがないか。
- キ. 明瞭な図であるか。(線の使い分けが正しいか)
- ク. 製図規約を重視しているか。
- ケ. その他
 - ・ロフトを計画した場合は, それを平面図や断面図等に描いているか。
 - ・手書き表現で描かれているか。(CAD特有の表現のままでないか)

⑤課題5「木造2階建専用住宅」(プレゼンテーション作品)

注意：2枚提出されているか。(1枚しか提出されていない場合は失格とする)

- ア. プレゼンテーション・表現を重視する。(プレゼンテーションとつくりだされている作品が一致しているか)
 - ・パース, 模型, 説明, 着色等で判断する。
- イ. 製図規約については重視しない。
- ウ. その他
 - ・計画や表現はオリジナリティがあるか。
 - ・各図面間での整合性はあるか。
 - ・縮尺については重視しない。
 - ・表面に氏名等を記入しない。

(5) 令和4年度に向けて

①課題1「軒先マワリ詳細図」

令和3年度 製図の基本であり, 例年通り。

令和4年度 新課程版教科書発刊に伴う, 製図例の変更。

②課題2「木造平家建専用住宅」

令和3年度 変更なし

令和4年度 変更なし

③課題3「木造2階建専用住宅」

令和3年度 変更なし

令和4年度 変更なし

④課題4「木造平家建専用住宅 (CAD製図)」

令和3年度 変更なし

令和4年度 変更なし

⑤課題5「木造2階建専用住宅 (プレゼンテーション作品)」

令和3年度 変更なし

令和4年度 変更なし

⑥共通事項 課題1～課題4の表題欄に課題番号を記入する。

5. 審査講評

(1) 課題1 軒先マワリ詳細図

金賞図面は, 屋根勾配の文字が大きい線の使い分けや強弱がしっかり描かれている素晴らしい作品でした。

金賞以外の図面についても, 引き出し線の角度不揃いの作品であったが, 線の強弱がしっかりしており, 作図の正確性がしっかりしていて, 惜しい作品がありました。また筆圧が弱いものが多く見受けられました。

【アドバイス】

次年度は, 基本的な線の使い分けや作図のルールなどに注意し, 正確な図面を書くことに重点をおいて, 作図を試みてください。

(2) 課題2 木造平家建専用住宅

昨年度から「基礎基本に立ち戻り, 作図力や正確性を求めること」に主眼を置いた課題に変更しました。金賞図面は, 線のメリハリがあり正確な表現がしっかりとされている作品でした。

金賞以外の図面についても, 造園計画など工夫した作品や線の強弱がはっきりした作品が見受けられました。一方で, 壁厚が極端に薄い, 太線と細線の使い分けが明確でない, 部屋の高低差の未記入など正確性に欠ける作品も多く見受けられました。

【アドバイス】

次年度は, 作図力や正確な図面表現をした作品を求めます。教科書を参考にすることや指導される先生からの指導助言をしっかり受け止めて, 作図を試みてください。

(3) 課題3 木造2階建専用住宅

金賞作品は, 一部の寸法表記などでできていない箇所も見受けられるが, 高齢者に配慮しながら二世帯の適度な距離感を意識したこと, 新型コロナ感染症による自宅の過ごし方や自宅勤務など新

しい住まい方を提案の作品でした。

金賞以外の図面についても、外構の表現は凝っているが、平面図と立面図の表現が乏しいものもありました。また、高齢者に配慮すべき点として、老夫婦室と外部のつながり、水回りや団らんや趣味を楽しむ場との動線などに工夫を凝らした作品が多く見受けられました。

【アドバイス】

次年度は、図面上の見栄えも重視しつつ、計画のユーモアや、ある意味で課題に対する愚直さも必要であると思います。また、屋根の掛け方については、屋根伏図と各図面の整合性をとるように作図を試みてください。

(4) 課題4 木造平家建専用住宅 (CAD製図)

金賞図面は、ありませんでした。

金賞以外の図面についても、課題2の審査講評と同じく、工夫された作品がある一方で正確性に欠ける作品も多く見受けられました。他に、印刷の設定で、作品自体が大きく印刷されている、破線間隔が広すぎる、開口部を枠線も太線で表現など印刷時の設定にも配慮が必要であり、この部分を改善すると、よい作品になっていたと思う作品が見受けられました。

【アドバイス】

次年度は、作図力や正確な図面表現をした作品を求めます。また、印刷後の図面表現 (印刷設定) も配慮して作図を試みてください。

(5) 課題5 木造2階建専用住宅 (プレゼンテーション作品)

金賞作品は、パースを取り入れるなど工夫し、設計のポイントが伝わるプレゼンテーション作品でした。また、自宅での快適な過ごし方を提案する作品や、高齢者への配慮や家族のつながりを大切にしたいコンセプトを平面計画に生かす作品、地元の景観や気候を生かした設計など、各自の創意工夫が見られた作品でした。

金賞以外の図面についても、設計と全体のレイアウトにこだわった作品がある反面、時間がなかったのか、計画と表現どちらにも乏しい作品も見受けられました。少なくともコンピューターを使うのであれば、着色は、手書きより容易に出来ると思いますので、コンピューターの特性を生かすようにすると良いと思います。

【アドバイス】

次年度は、プレゼンテーション作品ではあるが、図面表現やレイアウトなどしっかりとした図面に仕上げる一方で、テーマに沿ったこだわりのある計画の提案作品の制作を試みてください。

6. 入賞者

(1) 課題1 軒先マワリ詳細図

金賞

宮城県古川工業高等学校 建築科1年 府田 里実

銀賞

岐阜県立大垣工業高等学校 建設工学科群1年

奥村 空

静岡県立浜松工業高等学校 建築科1年 村上 幸

銅賞

岐阜県立中津川工業高等学校 建設工学科1年

水野 怜美彩

山梨県立富士北稜高等学校 建築デザイン系列2年次

天野 結衣

入賞

岐阜県立中津川工業高等学校 建設工学科1年

権藤 優里亜

宮城県石巻工業高等学校 建築科1年

鈴木 采紗

富山県立富山工業高等学校 建築工学科1年

坂口 寛太

宮城県白石工業高等学校 建築科1年

齋藤 友宏

山梨県立富士北稜高等学校 建築デザイン系列2年次

後藤 来実

神奈川県立神奈川工業高等学校 (定時制)

建設科2年 大谷 麻智

長野県飯田OIDE長姫高等学校 建築学科1年 塩澤 和都

長野県飯田OIDE長姫高等学校 建築学科1年 鈴木 美蘭

(2) 課題2 木造平家建専用住宅

金賞

神奈川県立神奈川工業高等学校 建設科2年 齋藤 ゆづ希

銀賞

神奈川県立神奈川工業高等学校 建設科2年 辻本 愛

栃木県立宇都宮工業高等学校 建築デザイン科2年

大貫 優斗

銅賞

岐阜県立岐南工業高等学校 建築科2年 高山 柊羽

松山聖陵高等学校 建築科2年 和田 穩空

山梨県立甲府工業高等学校 建築科2年 中根 康介

入賞

栃木県立宇都宮工業高等学校 建築デザイン科2年

佐山 翔音

山梨県立甲府工業高等学校 建築科2年 飯沼 麻衣

群馬県立前橋工業高等学校 (定時制)

建築科3年 関口 由奈

(3) 課題3 木造2階建専用住宅

金賞

岐阜県立可児工業高等学校 建設工学科2年

高山 菜那

銀賞

神奈川県立神奈川工業高等学校 建設科3年 小林 永思

銅賞

岐阜県立岐南工業高等学校 建築科3年 野津 彩花

神奈川県立神奈川工業高等学校 建設科3年 河内山 凜人

神奈川県立神奈川工業高等学校 建設科3年 小林 波琉

入賞

松山聖陵高等学校 建築科3年 松原 爽太

松山聖陵高等学校 建築科3年 森 帆乃香

(4) 課題4 木造平家建専用住宅 (CAD製図)

金賞

該当なし

銀賞

松山聖陵高等学校	建築科3年	城 美翔
愛知県立半田工科高等学校	建築科3年	荒木 啓克

銅賞

愛知県立半田工科高等学校	建築科3年	岩川 航我
愛知県立半田工科高等学校	建築科3年	高橋 琉月

入賞

松山聖陵高等学校	建築科3年	小島 和貴
松山聖陵高等学校	建築科3年	山田 陽斗

(5) 課題5 木造2階建専用住宅(プレゼンテーション作品)

金賞

松山聖陵高等学校	建築科3年	村上 歩夢
----------	-------	-------

銀賞

山梨県立甲府工業高等学校	建築科2年	野澤 春輝
松山聖陵高等学校	建築科3年	山田 陽斗

銅賞

松山聖陵高等学校	建築科3年	西田 嵩虎
埼玉県立春日部工業高等学校	建築科3年	青木 玲雄斗
埼玉県立春日部工業高等学校	建築科3年	高木 彩花

入賞

山梨県立甲府工業高等学校	建築科2年	矢崎 大智
神奈川県立神奈川工業高等学校	建設科3年	田村 瑠香
岐阜県立岐南工業高等学校	建築科3年	篠田 流輝

7. 製図コンクール運営委員(令和3年度)

佐藤 康雄 (神奈川工定)	高野 史晃 (真岡工)
中曽根 康 (前橋工定)	村井 和幸 (新潟県央工)
笹崎 ひろみ (墨田工)	荒木 宏道 (館林商工)
島山 弘幸 (石巻工)	門馬 紀介 (葛西工)
萱沼 俊一 (白石工)	後藤 隆宏 (甲府工)
菅谷 太郎 (川越工)	松原 昌忠 (葛西工)
首代 昌紀 (京葉工)	渡邊 恵一 (宇都宮工)
森嶋 真一 (甲府工)	

(敬称略・順不同)

令和4年3月31日
製図コンクール運営委員会